第１１課　負債―日々の決定

【暗唱聖句】

「すべての人々に対して自分の義務を果たしなさい。貢を納めるべき人には貢を納め、税を納めるべき人には税を納め、恐るべき人は恐れ、敬うべき人は敬いなさい。互いに愛し合うことのほかは、だれに対しても借りがあってはなりません。人を愛する者は、律法を全うしているのです」ローマ13:7，8

【今週のテーマ】

今週は聖書が負債について何と教えているかについて学びます。

【日曜日・借りること、使うこと】

「そのうちの一人が梁にする木を切り倒しているとき、鉄の斧が水の中に落ちてしまった。彼は、「ああ、御主人よ、あれは借り物なのです」と叫んだ」列王記下6:5

エリシャとともに預言者たちが住む家を作るために梁となる木を切っていたところ、誤って斧を水の中に落としてしまいます。それは自分のものではなく借りたものでした。人から何かを借りた場合、それを責任をもって返す責任があります。しかし、先のことは誰にもわかりません。まさか斧を水の中に落としてしまうとは思ってもみないことでした。このような事例からもわかるように、人から何かを借りるときは、常に危険を伴うことを忘れてはなりません。特に、金品に対しては慎重でなければなりません。もし返済することができないということにでもなれば、神様の名前を汚してしまうことになるでしょう。

「主に逆らう者は、借りたものも返さない。主に従う人は憐れんで施す」詩編37:21

「願をかけておきながら誓いを果たさないなら願をかけないほうがよい」コヘレト5:4

「彼があなたに貸すことはあっても、あなたが彼に貸すことはない。彼はあなたの頭となり、あなたはその尾となる。これらの呪いは、ことごとくあなたに臨み、付きまとい、実現して、ついにあなたを滅びに至らせる。あなたの神、主の御声に聞き従わず、命じられた戒めと掟とを守らなかったからである」申命記28:44、45

もし、借りたものを返さないのなら、それは主に逆らうことになります。返す約束を果たせないなら、初めから借りないことです。人から借りてばかりいる人は、まるで呪いのようにその貸してくれる人には頭が上がらなくなることでしょう。お金を借りて使うということが習慣化してしまうと、そこからなかなか抜け出せなくなります。現代生活で注意しなければならないのは、クレジットやキャッシングをあてにした生活です。手元にお金がないのにあるかのような錯覚を起こしてしまい罠があります。

【月曜日・管理の務めと瞬間的な満足】

「ヤコブはエサウにパンとレンズ豆の煮物を与えた。エサウは飲み食いしたあげく立ち、去って行った。こうしてエサウは、長子の権利を軽んじた」創世記25:34

エサウは長子としての特権を、飲み食いのために軽んじました。食欲を満たしたいという瞬間的な満足と彼の長子としての特権を交換してしまったのです。のちに彼は後悔し、涙を流しながら長子の特権を取り戻そうとしますが、それを手に入れることはできませんでした。わたしたちは瞬間的な欲求や感情に屈して、大切なものを失わないように注意しなければなりません。しかし、これは実は瞬間的な出来事ではなく、エサウは常日頃から自分に与えられていた長子としての特権を軽んじていたのです。だから、このときも簡単に食欲に負けてしまったのです。何が一番大切なことなのかを、いつも考え、いつも思い、その大切なもののために生きているなら、瞬間的な誘惑に負けずに生きることができます。

　対照的なのはイエス・キリストです。40日もの断食のあと、悪魔の誘惑に3度も試みられましたが、それに屈することはありませんでした。そして、イエス様はわたしたちにも罪の誘惑に打ち勝つ力があることを示されました。イエス・キリストは悪魔からの誘惑に対して、み言葉によって勝利されました。わたしたちも聖霊の導きのもとに、み言葉を学び、み言葉に生き、そしてみ言葉の力によって罪に勝利していきます。

【火曜日・収入に応じた生活をする】

「知恵ある人の住まいには望ましい宝と香油がある。愚か者はそれを呑み尽くす」箴言21:20

この聖句はきちんと経済的な管理を行っている人とそうでない人を対比しています。与えられたもので満足し、それぞれの収入に応じた生活をするのは、管理者としての務めです。しかし、それができないで本来手元にあるべき財産を呑みつくしてしまうような生活をしているとすれば、聖書が言うまでもなく、それは愚か者がする行為なのです。さらにパウロは次のように考えていました。

「食べる物と着る物があれば、わたしたちはそれで満足すべきです」第一テモテ6:8

食べる物と着る物があれば、それで満足すべきというのは極端な言い方に聞こえるかもしれませんが、パウロの言いたいことはキリストが教えられたように何を食べるか、何を着るかに執着するなということでしょう。必要ならばそれは神様が与えて下さるということです。パウロはキリストの内に生きるということで十分だったのです。

また現実的な問題として、「わたしたちは、何も持たずに世に生まれ、世を去るときは何も持って行くことができないからです」（第一テモテ6:7）とも言っています。わたしたちが積むべき宝はこの世ではなく天にあるのです。

【水曜日：借金を断る】

「恵みの倉である天を開いて、季節ごとにあなたの土地に雨を降らせ、あなたの手の業すべてを祝福される。あなたはそれゆえ、多くの国民に貸すようになるが、あなたが貸してもらうことはないであろう」申命記28:12

本来、神の子たちは人から借金をする必要がありません。なぜなら、神様が「恵みの倉である天を開いて、季節ごとにあなたの土地に雨を降らせ、あなたの手の業すべてを祝福される」からであり、「多くの国民に貸すようになるが貸してもらうことはないであろう」と約束されているからです。しかし、このようにうまく行かないのであれば、立ち止まって日ごとの生活のあり方を、神様を前にして考えてみる必要があるでしょう。借金をすると、霊的にも弱まります。また、聖書は人の借金の保証人になることも賛成していません。

「手を打って誓うな、負債の保証をするな」箴言22:26

クリスチャンとしての愛という名のもとに、保証人になることを他人から頼まれるかもしれません。しかし、聖書は保証人になるなと教えています。

【木曜日：貯蓄と投資】

「蟻には首領もなく、指揮官も支配者もないが夏の間にパンを備え、刈り入れ時に食糧を集める」箴言6:7

ありが冬に備えて夏の間に一生懸命に食料をためるように、わたしたちも生活に必要なことのために貯蓄をしていくことは大切なことです。しっかりとした目的があれば、お金に執着してため込むという罠から逃れることができ、生活も安定します。

　またわたしたちは天に投資します。神様の働きのために献金することは、天に投資しているのと同じです。それはやがて大きな神様からの恵みとなって、何倍にも増えて返ってくることでしょう。